

# 人工呼吸器でいきいき 映画「風は生きよという」

海老原さん(右)が出演した映画の一場面(全国自立生活センター協議会提供)



## 岐阜で6日上映、講演も

重い身体障害があり、人工呼吸器を付けて日常生活を送る人たちをとらえたドキュメンタリー映画「風は生きよという」が六日、JR岐阜駅隣のハートフルスクエアGで上映される。上映後には、出演者による講演会もある。

映画は、介助者らに支えられて一人暮らしをする女性ら五人を追う。FC岐阜の恩田聖敬前社長と同じ筋萎縮性側索硬化症を発症した男性もいる。

講演会には、脊髄性筋萎縮症の患者で、自立生活センター東大和(東京)の理事長を務める海老原宏美さん(三)を迎える。

つかいぼうの後藤篤謙副理事長(四七)は「人工呼吸器を使えば

地域でいきいきと暮らせる人たちがいることを、映画を通じて多くの人に感じ取ってもらえたら」と来場を呼び掛ける。参加費五百円。定員五十人。團つかいぼう＝058(215)7374

(嶋村光希子)

障害者の支援に取り組む岐阜市の団体「障害者自立センターつかいぼう」が企画。映画を制作した全国自立生活センター協議会(東京)からの自主上